



特別インタビュー ● 香川県立美術館 浜田恵志  
動き出した「瀬戸内国際芸術祭2013」

# 平清盛 夢の舞台の 瀬戸内海



島キッチン TEL0879-68-3771 (週末のみ) 撮影:中村真



## 若者の心をつかむ 豊島

2010年の瀬戸内国際芸術祭の舞台の一つであった豊島には、豊島美術館や、週末を中心にオープンするレストラン「島キッチン」を目標に、現在も多くの観光客が訪れている。芸術祭をきっかけに島は活気づいたが、島内の宿泊施設の少なさが課題となっていた。

訪れた人にもっと島に親しんでほしいと、今年の春から、民家の空き部屋を宿泊場所として提供する民泊の取り組みが始まった。島の暮らしを体験してもらうため、宿泊先の家の人の暮らしに合わせ、農作物を取獲したり、漁に出たり、一緒に自炊したりする。いわば田舎の親戚の家に泊まる感覚が、都会から来た若者の心をつかんでいる。1泊の予定を2泊に延ばしたり、後日手紙が届くこともあるそうだ。「瀬戸内国際芸術祭2013」では、作品と共に、豊島の魅力の一つになる。

豊島観光協会ホームページ  
<http://www.teshima-web.jp/>



# 平清盛

平家の全盛時代を築いた平清盛。その祖父、平正盛は、その晩年、讃岐守に任じられていた。正盛はまた備前守も務め、当時、海賊が横行していた瀬戸内海で、すでに武士団を統率し、着実に平家の力を築いたといわれる。清盛の父、忠盛は瀬戸内の海賊討伐を命じられ、海の強者たちを束ねていった。また、宋（現在の中国）との交易により、平家の財力を盤石のものとする。

その平家二門の子として成長する清盛。大規模な港湾整備にも取り組んだ。はるかな宋への思いを強くし、瀬戸内海の支配権をさらに広げたのも清盛であった。海がもたらす異国の風は、清盛を型破りな男へと育てていく。



当時の瀬戸内海は平家の支配下にあった。その豊かな海と領地が、清盛の栄華を支えていたのである。今もこの海は、世界に誇るアートを育み、人々の夢を育てている。

# 夢の舞台の

## 平家を支えた讃岐の地

穏やかに広がる海と美しい島々、印象的な山の姿。讃岐路に点在する伝説の地を巡れば、はるか源平の鼓動が伝わってくるようだ。



水主神社(東かがわ市水主)



東かがわ市民俗資料館に展示されている『讃岐国名勝図会』より大塚段全図

清盛の祖父は讃岐守東かがわ市の米どころ水主(みずし)にある「水主神社」。讃岐守であった清盛の祖父・正盛が広大な土地を寄進したという記録が残されている。清盛の甥(おい)・教経(のりつね)は、大塚段(おおかりまた)を奉納したと伝わる。



瀬内諸島(丸亀市ほか)

### 平家の足跡が残る島

清盛やその父・忠盛は瀬戸内海の水軍を掌握したと伝わる。後に「塩飽水軍(しわくすいぐん)」と呼ばれる塩飽諸島の柏葉りたちも、そうした一軍であったことだろう。塩飽諸島と平家とのつながりは深く、源平扇合戦の後に女御や子どもたちを島にとどめ置いたという話も残されている。



平池(高松市仏生山町)

### その名も「平池」

高松市仏生山町にあるその名も「平池」。清盛の命により再築したと伝わる池の端にはその時に人柱になったという伝説の少女像が立っている。

東かがわ市ニューツーリズム協会  
TEL 0879-25-6550

丸亀市観光協会観光案内所  
TEL 0877-22-0331

高松市観光交流課  
TEL 087-639-2416

# 瀬戸内海

平清盛  
夢の舞台の  
瀬戸内海

高松港から小豆島(池田・草壁)に向かうフェリーは、長崎の鼻と呼ばれる屋島の沖を通過する。そこに見える風景は、瀬戸内海から讃岐を訪れた平家の二軍が見たであろう山と入り江の姿。庵治半島と屋島に守られた入り江を絶好の要塞と信じ、船を進めたに違いない。この屋島の海岸近くに安徳天皇の行在所(仮の御所)もある。

海からの敵の来襲に備えていた平家。ところが思いがけず義経率いる源氏軍に陸から火を放たれた。1185年(元暦2年)、源平屋島合戦の火ぶたが切られた。



瀬戸内海から見る讃岐の地を訪れた平家。突き出た屋島(右)の威容、鋭い五剣山(左)の時。

平家に繁栄を  
もたらした瀬戸内海は  
やがて源平屋島合戦の  
舞台となる



**洲崎寺**(高松市牟礼町牟礼北)  
源平屋島合戦の激戦地にある寺。境内には、「屋島ノ瀨の戦い」を表現した石彫がある。近くには、「源頼朝一の膳的」など、源平屋島合戦名場面を史跡が点在する。夏には、「むれ源平石あかりロード」が開催される。

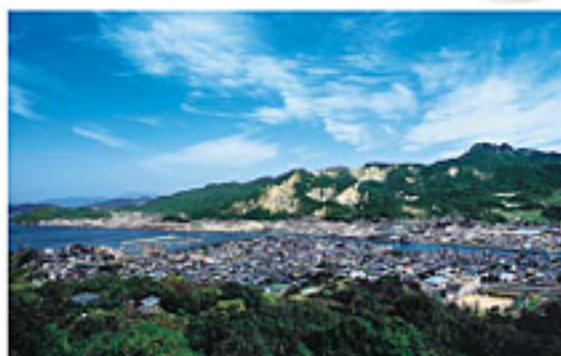


**六萬寺**(高松市牟礼町牟礼)  
1183年(寿永2年)秋、都を追われた平家がこの地にやって来て、安徳天皇の仮の住まいとした寺である。平家の公達がこの寺で詠んだ歌のうち、三首が今も伝えられている。また茶室の壁には、清盛の息子・宗盛が寄進した六萬燈籠がある。



**志度寺**(さぬき市志度)  
屋島から逃げ延びた平家は、志度の地で再び源氏の攻撃に遭う。いわゆる「志度合戦」である。一説には、平家は讃岐国志度道場(現在の志度寺)に立てこもったという。この戦いに敗れた平家は、塩路屋島などを転々とし、いよいよ壇ノ浦へと落ちていく。

源平屋島合戦の古戦場を巡る旅。



重盛をしのぶ屋島寺

源平屋島合戦の舞台となった屋島。その山上には、源平ゆかりの宝物の数々を収蔵する屋島寺がある。その一つは清盛の嫡男、灯籠大田とも呼ばれた重盛が燃った灯籠。また、重盛が助けたタヌキの子孫が真山(みのやま)大明神として境内に祭られている。同じく境内には源平屋島合戦八百年祭の記念事業の供養碑があり、見事な源平絵巻が麻治石に刻まれている。



高松平家物語歴史館



源平の古戦場屋島を望む地にあり、「平家物語」の名場面をろう人形でリアルに再現した資料館。臨場感たっぷりに、平家物語の世界をのぞき見することができる。  
高松平家物語歴史館 TEL.087-823-8400

舟隠し

(高松市庵治町舟隠)  
屋島の対岸にある入り江は、平家の軍船の集積地と伝わる。1183年(寿永2年)ころ、1年半の間、平家の本陣があったとも伝えられている。

源平古戦場展望台

(高松市屋島東町)  
屋島山上の東に面した展望台からは、源平屋島合戦の古戦場を一望することができる。

海辺の行在所

1184年(寿永3年)の一の谷の合戦後、逃げ延びてきた平家が郡司に命じて造営した安徳天皇の行宮跡。当時は海が近く、すぐ船出することができた。天皇の印である三種の神器(じんぎ)と共に讃岐にとどまった安徳天皇。ここは、つかの間、安らぎの都であった。



安徳天皇家(高松市屋島東町)

平家供養の鐘



源平の古戦場屋島の山上にある屋島寺の釣り鐘は「平家供養の鐘」と呼ばれる。

源平の和三盆

屋島寺の宝物館には源平合戦ゆかりの品々が展示されている。ここではお抹茶で一服することもでき、これに平氏と源氏の家紋をあしらった和三盆が添えられる。これは土産物としても買いたい求めることができる。



平家落人伝説

讃岐の地には、観音寺市の有木の葉やまんのう町、横畑、三木町の集落、また瀬戸内海の島々に落人伝説が残っている。中でも清盛の孫有徳が隠れ住んだと伝わる有木落合では、住民の約8割の名前に「平」が付くという。



大河ドラマ「平清盛」で崇徳上皇役を演じる井浦新さんが「平清盛」NHK高松放送局ご当地サイトのインタビューで崇徳上皇や香川県への思いを語っています。以下はそのサイトからの抜粋です。



井浦 新さん

大河ドラマ出演のきっかけや崇徳上皇への思いを尋ねられて

大河ドラマに参加できるのは、幼少期から見ているので本当に嬉しいです。それに個人的に歴史が好きで、平安時代は今までのお芝居で演じたことがないですし、それが更に自分がずっと追いかけていた人でもある崇徳院の役を演じられるのはやうがいがありますし、とても嬉しいです。僕には「崇徳上皇」という呼び方ではなく「崇徳院」という呼びの方がしっくりくるんです。

江戸時代の絵師・歌川国芳が、怒雲となって飛び立った瞬間の崇徳院を浮世絵で描いていて、僕はその絵がすごく好きなんです。

あまりにも僕の中にはその絵の印象が強に残っていたので、崇徳院という人物をまず掘り下げていって、いろんな本を読んで様々な異説や物語のある人物だと言うことを知ってどんどん興味が湧いていきました。

崇徳院については詳しいのではなく、好きなんです。だから磯さん(注:「平清盛」担当のNHKドラマ部職員 智明チーフプロデューサー)に会って最初にこの役をと言われた時、「どうして崇徳院で選んでくれたんですか? 僕が以前に興味があると話しましたか?」と言うような所から始まったんです。本当に嬉しかったです。

インタビュアーからお土産に讃岐うどんを渡されて

結構さぬきうどんは好きで食べています。東京ではなく、現地で(笑)

この役(崇徳上皇)をやる前から、香川の文化や歴史には興味があって数えきれないくらい出かけていました。金毘羅さんに伊藤若沖や円山応挙の絵があってそれを見たり、書院で江戸時代の絵師が残した絵やいろんなものを見たりしています。あとはイサム・ノグチ庭園美術館とかも好きですね。

史跡やお寺様参りもしていて、四国霊場八十八か所は四国に行くたびに、その地その地のお寺に行きます。仕事もあるので(八十八か所を)順番に流れて見ると言う訳にはいかないですけど。



なかしよ 直島(直島町)  
崇徳上皇が立ち寄り、島人の心根の高直さに島の名を「直島」と名付けられたと伝わる。現在はアートの島として知られる直島には、崇徳天皇宮が築られ、琴を爪弾いたという琴弾地の真近くには、その時に録んだという「松山や 松のうら風吹きこして しびて拾う 忘れれ貝」の碑が残されている。

平安時代を彩る偉大な二人も、讃岐路で傷ついた心を慰めている。  
平家繁栄の影で、悲劇の崇徳上皇。清盛と同じ北面の武士であった佐藤義清である。義清は、出家して西行と名乗る。  
上皇は、讃岐国へと流され、

1164年(長寛2年)に16歳で崩御する。  
今でも地元の人々は、「天皇さん」と親しみを込めて呼び、ゆかりの史跡を守っている。西行法師も上皇をしのび、御陵に参拝した。普通寺周辺でしばらく庵を結び、数年間住んだともいわれている。



十三重塔

悲劇の上皇 崇徳上皇

漂泊の歌人 西行法師



願証寺殿



白峰(坂出市青海町)  
瀬戸内海を望む真備地五色台にある白峰。ここには、崇徳天皇の御陵やその御慰所である願証寺殿(とんしょうじでん)がある。四国霊場第81番札所白蓮寺(しろみねじ)の境内にある願証寺殿の前には、上皇をお守りする鳥天狗(からすてんぐ)の像が建てられている。また、西行が崇徳上皇の墓に詣でたという遺跡がある。江戸時代に書かれた「雨月(うげつ)物語」では、ここで西行が崇徳上皇のことで対話したという。白蓮寺の夢遺地にある十三重塔は、源朝が崇徳上皇の供養のために建てたと伝わる。

崇徳天皇 白峰殿(しろみねのみさぎ)



平清盛  
夢の舞台の  
瀬戸内海



ぼいしざん 我拝師山(普通寺市吉原町)  
西行が弘法大師ゆかりの地を訪ねたという我拝師山。四国霊場の出釈迦寺や養茶寮寺にも西行の足跡が残る。



西行庵(普通寺市吉原町)  
普通寺市の水基の丘には、西行の草庵を再建したという「西行庵」がある。普通寺市の玉泉院の久松庵にも滞在したと伝わる。

西行法師の道(坂出市青海町)  
五色台のみもと、青海神社の傍から、西行が帰業を目指したことにもちなみ整備された西行の道。



直島町観光協会 TEL.087-492-2299  
普通寺市商工観光課 TEL.0877-63-6315  
坂出市産業課にぎわい室 TEL.0877-44-5015

# 特別インタビュー 動き出した「瀬戸内国際芸術祭2013」



2年前に開催した芸術祭では、3カ月余りで約93万人もの人々が島々を訪れ、芸術作品やイベントを堪能した。そして、第2回目となる「瀬戸内国際芸術祭2013」。その見どころを浜田知事が語る。

## 五つの島が新たな舞台に

「瀬戸内国際芸術祭2013」の概要とは？

開催地は、前回のエリアに加え、香川県の西部に位置する5つの島々、沙弥島本島高見島栗島伊吹島が舞台となります。会期は春(3月20日～4月21日)・夏(7月20日～9月1日)・秋(10月5日～11月4日)の3シーズンに分け、春には島々に咲き誇る桜、夏には光きらめく瀬戸内海と島々、秋には地元の秋祭りなど、それぞれの季節の魅力に触れていただきたいと願っています。

さらに、会期と会期の間の土曜、日曜、祝日についても作品の公開を予定しており、前回に比べて作品の公開日数を増やすことで、ゆったりと芸術作品を楽しんでいただくことができると考えています。



## 好評の企画と新しいエッセンス

開催地となる島々の特徴や展示内容は？

前回の開催地からご説明しますと、地中美術館などがある直島においては、新たに安藤忠雄建築館(仮)を計画し、島の歴史や安藤建築の模型、図面などを展示する予定です。また、大島で注目された三分(さんぶん)博志氏による建築構想展をはじめ、島内各所で既存の民家を利用したアート展示を展開します。

豊島美術館がある豊島では、地元のお母さんたちと丸ノ内ホテルのシェフが協働で行う島キッチンが好評です。そうした取り組みに加え、新たな空き家での作品展開も行う予定です。

高松港の沖に浮かぶ女木島では、休校中の女木小学校を活用して大竹伸朗氏が作品展示を行います。男木島では、休校中の男木小学校を展示会場とし、大岩オスカル氏や会田誠氏が作品制作の予定です。

「八日目の蟬」の小説や映画の舞台としても注目される小豆島では、アート

ここでは、前回の芸術祭で好評であった小豆島の「宝船」の豊福亮氏の作品展示を予定しています。

## 明日の元気を生み出す芸術祭へ

開催に向けた取り組みや思いを最後に一言

先日、大阪で開催された旅行会社向けの旅行商品説明会でもプレゼンテーションを行いました。6月24日には高松市で、7月27日には東京において、それぞれ企画発表会を開催し、参加予定アーティストや新しいロゴデザイン、ポスターなどを発表する予定です。来年の開催に向けて、さまざまな場所での「瀬戸内国際芸術祭2013」の魅力を広げていきたいと考えています。ぜひ、瀬戸内海の島々にお越しいただきませうとお待ち申し上げます。

プロジェクトをより強力に展開し、前回の地区に加え、中部の三都半島、東部の瀬の郷や坂手港、東北部の福田港などにエリアを拡大します。例えば、坂手港では、使わなくなったフェリーの乗船用タラップをアート化するプロジェクトを計画するなど、その場所ならではの興味深い取り組みを行います。島内での宿泊のキャパシティも十分にあり、高松港との海上交通アクセスも便利ですので、今回の芸術祭では宿泊の拠点として大いにPRしたいと考えています。

高松港周辺では、市民プールの改修に合わせ、空間全体を海に見立てたアートとしてデザインします。2013年は丹下健三氏の生誕100年に当たることから、記念プロジェクトを計画しています。また、海の幸、山の幸など、さまざまな食べ物が集まる「マルシェ」や皆さまに楽しんでいただけるアートイベントも開催し、にぎわいともてなしの拠点とします。

## その季節の島の輝き

新たに加わる島々ではどのような取り組みが行われるのか？

新しく舞台となる五つの島は、それぞれの島の特徴が最も顕著な1シーズンのみの開催となります。



アカンガ湾(沙弥島)

豊島美術館(豊島) 写真 森川 孝

まず春に開催されるのは、坂出市の沙弥島です。万葉集において柿本人麻呂の長歌に詠まれた島で、浜からは瀬戸大橋を一望できます。アートのベンチ

を置いて、ゆっくりと海を眺めていただきたいと考えています。浜に隣接した廃校を舞台にアート展示も行います。

秋に開催されるのは、丸亀市の本島、多度津町の高見島、三豊市の栗島です。塩飽水軍の本拠地として知られる本島には、塩飽勤番所や千歳座、重要伝統的建造物群保存地区の笠島集落があり、そうした地域資産を保存し、生かす活動を行います。

高見島は、「男はつらいよ 寅さんの縁談」「機関車先生」など、映画のロケ地としても知られています。廃校となった高見小学校や空き家を活用したアート作品の展示を行います。また、地域独自の食文化である「茶がゆ」などで、おもてなしをします。

栗島は、日本初の海員学校が設立されたことで知られ、現在は、栗島海洋記念館として海の歴史を伝えています。早くから芸術活動に取り組んできたこの島は、東京藝術大学と連携し、若手芸術家の創作活動である「栗島アーティスト・イン・レジデンス」とともに作品展示を行います。

最後に、ご紹介する観音寺市の伊吹島は、夏の開催を予定しています。良質な煮干しイワシの生産が盛んで「イリコの島」として知られています。



JR高松産品説明会(5月・大塚)



健やかに美味い  
プレミアム黒毛和牛

# オリーブ牛

讃岐牛×オリーブ

健康の実りが、  
おいしい牛肉を生んだ。  
日本のオリーブ栽培発祥の地  
小豆島のオリーブと、  
高度な肥育技術と歴史を誇る  
「讃岐牛」が一つになり、  
新プレミアム黒毛和牛  
「オリーブ牛」が誕生。  
さらなる市場拡大へ向けた  
取り組みが始まり、  
今年注目の逸品だ。

今やオリーブの島として知られる小豆島。

この地で日本初の本格的なオリーブ栽培が始まったのは、今から百年以上も前の1908年（明治41年）。さらにさかのぼる1882年、小豆島では全国に先駆けて和牛の肥育が始まっていた。品質が高いことで知られる「讃岐牛」のルーツはここにある。その小豆島で、「オリーブ牛」は生まれた。5年に一度の牛の品評会（全国和牛能力共進会）で、健康に良いというオレイン酸の測定値が審査に加わることを知った小豆島畜産部会長は、島のオリーブを牛のエサにしたいと思いつき、試行錯誤の末、平成22年5月「小豆島オリーブ牛」初出荷となった。売り出しと同時に市場での評価は高く、23年には、香川県全域で産産体制の取り組みが始まり、「オリーブ牛」の商標登録が特許庁に認められた。



オリーブの搾り果実をエサとした牛の産卵を、今度はオリーブ栽培に生かすことで、香川県ならではの循環型農業の取り組みも始まっている。

が定めたオリーブ飼料を、定められた期間・量を与えて育てられた「讃岐牛」のみに与えられるブランド。その「讃岐牛」とは、香川県内で肥育された血統の確かな黒毛和牛で、なおかつ枝肉が日本食肉格付協会規定の最高位に位置する金ラベル（4等級以上）、銀ラベル（3等級）というよりすぐりの中よりすぐりブランド牛なのである。

オリーブには、悪玉コレステロールを抑えることで知られ動脈硬化を予防するといわれるオレイン酸の他に、抗酸化作用が強いポリフェノールがたっぷり含まれている。このため、うま味成分が増し、柔らかく、それでいてさわやかな後味という健康的な「オリーブ牛」が誕生した。

オリーブと共に健康志向の時代に愛されるブランド牛。特級グルメと名付けたい健やかなプレミアム食材を、ぜひ一度ご賞味いただきたい。

「オリーブ牛」が有名百貨店のギフトセットに登場。定番商品へと目指したい。今後も、バイヤーや小売店向けに「オリーブ牛セミナー」の開催や、秋には首都圏を中心に「さぬきうまいもん祭り」を展開し、積極的に売り込みを行う。マカオでも好評で、海外に向けてもルート確立に期待がかかる。また今年新しく、生産者と販売店、料理店が一体となって振興会を設立し、協力店の指定制度を設けたり、生産者と流通事業者が相互に理解を深めながら、「オリーブ牛」の販売促進に取り組む、今までにない協力体制も整い、さらなる販路拡大へ動き出した。



甘いものといえばダイエットの大敵！  
けれど、もし、太らないスイーツがあったら…。  
それどころか、脂肪の蓄積を抑え、  
血糖値を抑える甘味があったら…。  
そんな期待を背負って、研究が続く希少糖の世界。  
6月から、その希少糖を含むシロップが全国販売となった。  
香川県内で「レアシュガースウィート」を使った  
スイーツなどが数多く販売されている。  
口溶けがよく上品な甘さと評判は上々。



そして、その驚くべき効能が次々と発表されてくる。希少糖D-プシコースには、なんと血糖値を抑え、動脈硬化を改善する働きがあるという。脂肪合成酵素の働きを抑制し、内臓や筋肉への脂肪蓄積を減らす働き、つまり肥満予防効果があるという研究結果も出ている。また、希少糖の二つD-アロースは抗酸化作用が強く、がん細胞の増殖を抑制する作用もあるのではないかという説も出ている。食品だけでなく、医薬品としても期待されている。

希少糖は自然界にはめったに存在しないが、加工食品中にもわずかに含まれ、一般的な食事をすれば、1日に0.2gほどのD-プシコースを食べていることがわ



かった。普段も口にしていて安全なものといえる。

ブドウ糖や果糖をアルカリにして加熱すると、D-プシコースなどの希少糖が増加するということが知られている。安全性が認められているこの反応をもとに、ぶどう糖果糖液糖(異性化糖)からD-プシコースやD-アロースなどの希少糖を一定量含む液糖(シロップ)の製造方法が開発され、最初の希少糖食品として、希少糖含有シロップ「レアシュガースウィート」が完成した。

このシロップは、昨年6月から県内企業向けに先行販売が開始され、この6月から全国展開での販売がスタート。販売を担当する(株)レアスウィートの代表取締役

スイートな  
かがわの新風

き しょう とう

# 希少糖

RARE SUGAR

糖と言えば多くの人が思い浮かべる「砂糖」は、ブドウ糖と果糖が結びついたもの。そのブドウ糖や果糖は、それ以上分けることができない糖「単糖」と呼ばれる。その単糖の中でも、自然界ではめったに存在しないものを「希少糖」と呼ぶ。そのため化学の力でつくり出そうとしたが、大変な手間を掛けてわずかの量しか生成できなかった。

ところが1991年、香川大学の何森健教授が、果糖から希少糖の二つD-プシコースを生成する酵素を発見。これにより、D-プシコースをはじめとする希少糖の研究は目覚ましく進む。香川県では産学官連携の研究開発事業として、生産技術の確立や応用研究が加速し、やがて、試験管の中の生成から工場での大規模生産に向けて、さまざまな取り組みが行われる。2006年には香川大学発のベンチャー企業である希少糖生産技術研究所が設立され、翌年には希少糖食品が起業する。希少糖を使った食品の企画や開発、製造や特定保健用食品の申請を目的に、いよいよ実用化に向けて大きな一歩が踏み出されたのだ。



社長近藤浩二氏は「高齢化時代に健康の鍵を握る希少糖製品が担う役割は非常に大きい。先行して取り組んでいる県内企業のスィーツなどの商品はどれも好評だ。今後は、県内から県外へと販売シェアを確実に広げたい」と語る。

江戸時代から極上の甘味料「和三盆」で知られてきた讃岐。夢の甘味料「希少糖」の香川県として、全国に甘い新風を送り始めたのである。

# 香川愛媛 せとうち旬新館

KAGAWA SHIMEI  
SETOUCHI SHUN SAI KAN



1階には「特産品ショップ」が、2階には郷土料理が味わえる「かおりひめ(香城)」と「観光交流コーナー」があり、香川を感じていただけるものがたくさんそろっています。

注目はこれ!

## 1F「青果物コーナー」が登場



新しく登場したこのコーナーには、香川から直送の新鮮な野菜や果物などが並びます。毎日の食卓に、もう一品、香川の県産品はいかがですか。

さらに毎月、試食販売を行います。実際に味わって、納得してご購入いただけるチャンス。6月には桃やさぬきのめざめ(アスパラガス)を、7月にはピーチも加わり、8月にはシャインマスカットや幸水(梨)と、季節ごとに選んでいただける香川の自慢の味をご紹介します。ぜひお立ち寄りください。



試食販売予定日  
6月29-30日、7月13-16日、8月下旬、9月上旬

【交通のご案内】  
○JR「新橋駅」銀座口から徒歩1分  
○東京メトロ銀座線「新橋駅」2番出口すぐ  
○ゆりかもめ/都営浅草線「新橋駅」から徒歩3分  
○都営大江戸線「汐留駅」から徒歩5分

〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10  
新橋マリビル1,2階  
<http://www.setouchi-shunsaikan.com>  
観光交流コーナー TEL03-3574-2028

## 東京で味わえる香川の恵み

～香川の食材に東京で出合った。  
まずは東京で。次はぜひ本場香川へ～

### “オリーブ牛”のグリル

うま味のあるプレミアム黒毛和牛の「オリーブ牛」をグリルし、オリーブとみそを合わせたソースで仕上げます。ソースとの相性も良く、口の中に広がるうま味が、小豆島の穏やかな風景をイメージさせてくれます。



六本木農園では、東京でいち早くオリーブ牛を取り入れました。ディナータイムに行う生産者による「農家ライブ」では、オリーブ牛へのこだわりを農家の方が直接PRし、なかなかの評判だったそうです。若手農家を応援したいと、生産者と直接話をしながら、常に素材が一番生きる表現方法を考えメニュー作りを行っている比嘉シェフ。農家の方の熱い思いを表現でき、喜んでもらえるのが一番嬉しいのだそう。



「オリーブ牛はネーミングもすてきですね。ほかにも香川県には、香緑(キウイ)やさぬきのめざめ(アスパラガス)、菜ごぼうなど気になる食材がたくさんあります」

【六本木農園】  
東京都港区六本木6-6-15  
TEL03-3405-0684  
<http://reppongi-nouen.jp/>

7月31日まで「小豆島産“オリーブ牛”のグリルジャポナードソース」がディナータイムのアラカルトメニューに登場

## 特別名勝 栗林公園を優雅に楽しむ

7月5日から「和船遊覧」が始まります。



南湖に和船を浮かべ、船頭の手こぎによって、優雅なひとときを過ごしていただきたいと、江戸時代の古図に描かれた高松藩主が舟遊びをする様子を再現しました。栴月亭や風岸の紅葉など移りゆくお庭の景色を船上から楽しみ、今まではまた違った趣を感じることができます。

園内を歩いて観賞するだけでなく、和船に乗って江戸時代にはばし思いをはせるという新しい楽しみが増えました。

秋からは、庭師によるガイドも始める予定です。園内にあるそれは見事な松を、実際に手入れしている庭師から、直接興味深い話が聞けるチャンス。

次々と魅力を増す栗林公園から目が離せません。

乗船料:大人600円、小中学生300円 乗船時間:約30分  
運航時間:9時から30分ごとで、最終乗船は閉園時間の1時間前(12時、12時30分運休)

【お問い合わせ】  
栗林公園観光事務所 TEL087-833-7411 <http://www.ritsurin.jp/>

## 「丸亀町グリーン」がオープン



活気づく高松の商店街。昨年完成した、ドーム広場やクリスタルガラス製の高いアーケードが印象的な高松丸亀町商店街の北側部分に続き、南側にあるG街区がこのたびリニューアルオープンしました。

「丸亀町グリーン」には、アパレルショップや生活雑貨、カフェなどの話題店が並ぶショッピング施設のほか、ホテルやマンションも入りました。

木々を配した吹き抜け広場には自然の光が差し込み、開放感あふれる空間となっています。屋上庭園もあり、にぎわいと調いがうまく調和したすてきな場所です。

魅力増すまち、高松丸亀町商店街。また新たな名所の誕生です。

【お問い合わせ】  
香川県経営支援課 TEL087-832-3343  
丸亀町グリーン株式会社 TEL087-811-6600  
<http://www.mgreen.jp>

## 香川県への移住・交流をサポート

4月から東京事務所、新しく「移住・交流コーディネーター」を配置しました。これまでも「東京人材Uターンコーナー」を設置し、香川県へのUターンをお手伝いしてきましたが、専任体制となり、これまで以上にサポートできる環境が整いました。



移住・交流コーディネーター(細川麻里さん)

「移住を考えるとときのハードルが少しでも低くなれば、細川コーディネーターはそんな思いで丁寧に対応しています。住む場所や仕事のことはもちろん、地域に溶け込む心構えなど、コーディネーター自身も、日々勉強しながら、親身になってアドバイスをしてくれます。

「香川県へのパイプ役として、少しでもお役に立てるように頑張りたいです。人のつながりの強さ、どこかでつながっているのだという安心感を感じられるのが香川県の魅力だと思います」と笑顔で語ってくれた細川さん。

香川県への移住に少しでも興味を持ったら、まず一歩踏み出してみませんか。実際に会って話を聞けば、また一つ香川県の魅力を発見できるかもしれません。

9月～11月に東京で開催される「ふるさと回帰フェア2012」や「四国暮らしフェアin東京2012」などでも細川コーディネーターが移住・交流相談を実施予定

【お問い合わせ】  
香川県東京人材Uターンコーナー(東京事務所内) TEL03-5212-9100  
香川県政策課地域づくり推進室 TEL087-832-3125  
ええ・かがわ <http://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/eeekagawa/>

## ますます魅せます 「うどん県。それだけじゃない香川県」



JR高松駅の発車「さぬき高松うどん駅」と岡山を結ぶマリンライナー

JR瀬戸大橋線を走るマリンライナーの車両に、それだけじゃない香川県の“アート”の魅力をラッピングをしてPRしています。

美しく穏やかな瀬戸内海、なだらかな平野におむすび山の点在するうどん県で、田園風景の中を電車で揺られたり、船で爽やかな潮風を感じたり、街角をぶらりと歩いてみると、たどり着いた先には、自然とともに息づくアートが待っています。要潤さんの優しい笑顔には、それらのアートに出合ったときの安らぎと感動が込められています。「こころ動くアート県、香川へ」ぜひお越しください。



うどん県特設サイトでは、「副知事 要の台所」を配信。 「うどん県。それだけじゃない香川県」のおいしさを伝えるため、うどん県副知事の要潤さんが料理の腕をふるいます。豊富な香川の旬の食材を見事にアレンジ。しょうゆ豆やオリーブ牛、オリーブハマチ、イリコなど、お薦めの食材で毎月20日ごろに配信します。おいしい香川県を発見してください。

新しく「うどん県公式パスポート」も登場。うどん県のさまざまな観光地を楽しく回るスタンプラリーや宿泊・グルメのお得なクーポンが付き、うどん県での滞在には欠かせません。県産品や「瀬戸内国際芸術祭2013」作品鑑賞パスポートも抽選で当たります。パスポートを持っていけば満足度アップで、きっと何度もうどん県に足を運びたくなるはずです。

【お問い合わせ】  
香川県観光振興課 TEL087-832-3379  
<http://www.my-kagawa.jp/>

